

神奈川県社会福祉協議会 ケアラー支援専門員設置事業（神奈川県委託）  
令和6年度二宮地域研修意見交換の概要  
※無断転用禁止

◆ワークシートに記載いただいた内容をまとめました。

【基調講演・当事者の話を聞いて感じたこと・考えたこと】

- ・つなぐこと、見守りが大切。
- ・知識と現実は違う。
- ・相談窓口、相談機関を周知していく。
- ・多様な担当部署の明確化が大事だと感じた。
- ・ケアラー本人は気づかない、気づいていない、大変だと思っていないとわかった。
- ・家族を責めないことを大切にしたい。
- ・ヘルパーさんの支援は本人のみだが、介護者の支援も必要ではないかと感じた。
- ・多職種連携をして、何ができるか考えていきたい。
- ・民生委員として「お変わりないですか？」と訪問しているが「眠れていますか？」など声かけの仕方を考える。
- ・子どもたちへの支援が必要と感じた。
- ・子供の頃からケアが当たり前だったということが改めてわかった。
- ・気に掛けることが大事だがそれぞれかける言葉が違ってくると思った。
- ・おしつけず伴走していくことを大切にしたい。
- ・「お手伝い」と「ケア」の境目は難しいが、周りの大人が気づけるようになり支援のタイミングを考える。
- ・子どもと接する職の方にも情報を広げていく。
- ・悩み相談できる場所、相談窓口を知っておきたい。
- ・解決させることを意識しやすいが、いつでも対応できるようにいつでも相談できるよと窓口を開けていきたい。
- ・当事者の方たちは自分の体験を活かして世に発信し、強みとして活動できていることがすごい。
- ・ヤングケアラーによる実際の報告を聞いて、体験者の言葉は辛かった。
- ・当事者の方の話は、具体的に貴重な機会だったと思う。
- ・今まであまり関わったことがなかったが、初めて体験談を聞く事ができて、ためになった。
- ・解決策よりも寄り添っていくことが大事だと思った。
- ・民生委員として役割を果たしていけたらと思う。
- ・ケアラー当事者の方の話を初めて聞く事ができ、一人ひとりが解決して行く方法をすすめて市町村でもケアラーをサポートしていければと思った。
- ・生活全体をみて動ける専門職が増えるとよい、みんなが暮らしやすい社会を目指して町民、民生委員、ケアマネージャー等の専門職、行政、その他関係機関が連携できるとよい。
- ・親を責めない。解決を求めない。がひびいた。
- ・今後ヤングケアラーになるかもしれないと思われることがあったら、予防的支援をしたい。
- ・当たり前のように「大丈夫ですか」と声をかけていたが、民生委員としての入り方、具体的な声かけにしていきたいと思った。
- ・他人事から我が事になった。
- ・体験談を聞けることで理解が深まった。
- ・親は親だと感じた。こどもは本当のことが言えない場合もあるのかもしれない。
- ・周り（親・親族・近所・友人・学校・医療機関）の気づきをつなげることが大切だと思う。
- ・当事者の話を伝えていきたい。

神奈川県社会福祉協議会 ケアラー支援専門員設置事業（神奈川県委託）  
令和6年度二宮地域研修意見交換の概要  
※無断転用禁止

【これから自分にできること】

◆あいさつ・声かけが大切

- ・気にかける。
- ・つながりを作る。
- ・具体的な声かけ、言葉かけ。
- ・様子をみて困っていたら同じ視線で関わる。

◆多職種連携

- ・誰が何をやるか声かけをしながらすすめる。
- ・学校での様子を聞いてみる等、連携の範囲を広げていく。
- ・多部署がかかわるからこそ、中心になる場所が必要だと思う。
- ・社会資源を知って連携を作れる状態にしていく。
- ・地域のボランティア、高齢者世帯に限らない組織作りが必要。

◆状況把握

- ・事業所に意見ボックス（夜も受付できるもの）を設置する。
- ・こどもの目に触れるところに意見ボックス設置等、こどもの声をキャッチできる手段作りをしたい。

◆専門職としての関わり方

- ・ケアマネージャーとして家族の思いを聞き、家庭の状況にあわせてプランを立てる。
- ・寄り添って伴走することが重要。
- ・介護のタイミングと家族の心持の違いを認識する。
- ・ケアスタッフならではの視点で家族の細かい関係の把握や、アセスメントなど個別対応をする。
- ・地域を巻き込みながら声をあげてもらえるよう、民生委員も連携や交流など一生懸命活動する。
- ・高齢者への関わりの中で、気にかけていきたい。

◆その他

- ・駆け込み寺のようなものを作る（イギリスを参考に、コンビニ的存在）。
- ・学ぶ、体験をする。
- ・昔は助ける方が多かったが、今は分かりづらい。違いを分かったうえで関わる。
- ・チラシを配る。
- ・特別視をせず、時間をかけて思いを引き出す。
- ・「支えるあなたも支えられていい」と伝える。
- ・支援が必要な方がいれば「ここに連絡をすればいい」と伝える。
- ・色々な感度を高めて、ヤングケアラーに気づく。